

世界へ飛び出せ！ 明大生 協定校留学日記

Vol.9 フランス・ヴェルサイユ大学
～未知の挑戦～

文学部4年
藤井 洸輔



友人とのパーティーにて

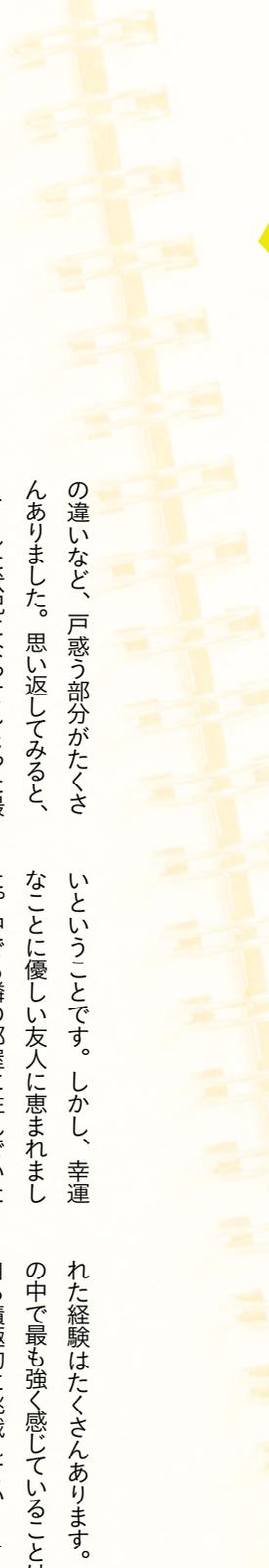
の違うなど、戸惑う部分がたくさんありました。思い返してみると、こうした状況になってしまった最も大きな要因は、私のフランス語の力が足りなかったということだと感じています。留学前は、簡単な日常会話はある程度できると自信を持っていましたが、実際に現地に着いてみると、相手が何を言っているのかわからない、自分の意思を伝えるには何と言えればいいのかわからないなど、全くと言っていいほどコミュニケーションをとることができませんでした。このとき私は、日本で学んでいたフランス語と実際に現地で話されているフランス語が、表現方法や話すスピードなど大きく異なっていて、簡単には通用しないということを実感しました。

「できない」ということは当然、友人を作ることも難しいです。周囲には日本人がいなかったため、フランス語ができないということには、コミュニケーションをとれないという思い、積極的に参加するようになり、徐々にフランス語が理解できるようになり、同時に友人も増えてきました。「できないから話さない」というのではなく、「できないから話しかく」ということが大事だということに気付きました。



フランス以外からの留学生も多く在籍していた

この留学を通して得ら



留学中に住んでいた寮の外観

私は2014年9月から今年5月までの約9ヶ月間、フランスのヴェルサイユ大学へ留学していました。ヴェルサイユはパリのすぐ隣に位置していますが、都会というよりは田舎に近いです。そのため大学のキャンパスも広く、非常にのびのびと過ごすことができました。さらにヴェルサイユ大学は留学生を非常に多く受け入れており、私の周りにはフランス人ももちろんのこと、その他周辺のヨーロッパ諸国やアフリカ、中南米からの留学生も非常に多い環境でした。

に所属しており、フランス語を学んでいましたが、日本の授業だけではフランス語で自由な会話ができるようになるのは難しいと感じていました。リスニングや会話の授業はもちろんありますが、単語や文法が中心の内容がほとんどで、実際のフランス人の会話をうまく聞き取ることができないということがありました。そのような中で、もっと本格的にフランス語を学び、現地に行つてフランス語で会話し、生活してみたいと考えるようになり、留学を決断しました。

現地での授業は全てフランス語で、フランス人と同じように受けました。学部や学科などを越えて、自分の興味関心に応じて好きな授業を履修すること

とができたので、私はフランス文学史や神話読解の授業などを興味深く、楽しく受講することができました。当然、フランス語で行われる授業についていくことは簡単ではなく、最初は非常に難しく感じました。課題はあまり出ないのですが予習復習は欠かせませんでした。期末などにはプレゼンテーションの課題もあったので、あまり多くの授業を履修しないように心掛けました。

今となっては、留学はとてもいい経験だったと思えますが、実際に現地に着いてしばらくの間は、とても大変でした。生まれて初めての海外で、初めての一人暮らしということもあり、文化や生活習慣

れた経験はたくさんあります。その中で最も強く感じていることは、自ら積極的に挑戦していくことの大切さです。自分ができないからやらないのではなく、できないからこそ飛び込んでいくことの重要性です。これは今後の人生についても同じことが言えると思います。この留学を通して、私はまた一回り大きな人間になれたのではないかと、そう思っています。

Profile

藤井 洸輔
Kousuke Fujii

文学部文文学科
フランス文学専攻4年
1993年生まれ 埼玉県出身
萩原芳子ゼミ所属

